



市議会議員
上田由美子
☎ 68-2106
Fax 68-2146



参議院議員
井上さとし



前衆院議員
藤野保史

一発で数十万の命を奪う 禁止条約加入の準備を

6月市議会
市民からの請願を不採択

小矢部平和委員会（代表世話人・堀内喜亨氏）は6月議会に「日本政府に、核兵器禁止条約加入の準備を開始し、締約国会議にオブザーバー参加を求め意見書」を採択されるよう求める請願を提出しました。6月29日の本会議で採決が行われ、上田由美子市議は賛成討論をしましたが、他の議員はこれに賛成せず、請願が不採択となりました。

小矢部平和委員会が談話

議会は「市民の平和生存権を保障する真剣な努力を」

核兵器

これに対して小矢部平和委員会は7月15日、市議会に対して「核兵器がたった一発でも数十万数百万人の命を奪う残虐兵器であり、これを使用することは人道に反するがゆえに国際条約になったこと、そのために被爆者を始め、日本

上田市議が賛成討論で訴え

請願を採択すれば

核兵器を世界からなくす大きな力に

核兵器禁止条約は、2017年7月7日、国連で122カ国が賛成し、採択されました。その後50カ国が批准したことにより、2021年1月22日、発効しました。2023年1月現在、署名国は92カ国、批准国は68カ国となり増え続けています。

核兵器禁止条約は、核兵器の開発、実験、生産、製造、取得、保有、貯蔵、そして、使用や使用することの威嚇、すなわち脅すことを禁止しています。「核抑止論」を否定しています。世界でただ一つの戦争被爆国として、日本がこの条約に署名し、批准することは、核兵器を世界からなくす運動をしている人たちに大きな励みとなります。ぜひ請願を採択されるよう訴えます。

核の危険が悪化 ロシアによる「核」の威嚇と大軍拡

ロシアのウクライナ侵略と核による威嚇、「抑止力」を口実とした西側諸国の核の「近代化」・大軍拡が続いています。しかし、「核」対「核」、「軍事」対「軍事」の対応では、事態をさらに悪化させます。平和と核兵器廃絶への転換が必要です。今年2月23日、国連総会は141カ国の賛成で、ロシア軍の即時撤退とともに、「国連憲章の原則に従ったウクライナの包括的、公正かつ永続的な平和」

国民が、長年必死の努力をしてきたことを受け止め、「市民が平和のうちに生存する権利を保障するため」に、小矢部市議会が真剣な努力をされるよう求める」との談話を出しました。



古代ハスが開花



2千年前の大賀ハスが桶の中で花を付けました。ボウフラ対策に銅板を入れています。
レンコンはとろろ汁にしていただきま（砂田喜昭）

のための外交努力を倍加することを求めました。また、3月31日には、ロシアのベラルーシへの核配備は、他国への核配備でありNPT核拡散防止条約に違反すると、国連安保理で各国から非難が相次ぎました。

一人の僧侶の行進から世界へ

ついに核兵器禁止条約の発効に

今年の原水爆禁止国民平和大行進でも、小矢部市役所玄関前で集会が開かれました。小矢部市実行委員会代表が、平和行進は65年前前日本山妙法寺の僧侶がたった一人で歩き始めたことが世界に広まり、核兵器禁止条約発効にまでたどり着いたと紹介しました。

入善町と黒部市は意見書採択

富山県の自治体では、2022年入善町議会と黒部市議会が意見書を採択しています。県内自治体の13%です。また全国では、都道府県を含む1788自治体のうち655自治体で意見書を採択しています。全体の36%です。小矢部市でも、核兵器禁止条約署名・批准の準備を国に求めること、また加入以前でも、締約国会議にオブザーバーとして参加することを求めることは、核兵器を世界からなくす大きな力となるため、請願を採択することを呼びかけます。